

⑫ 公開特許公報(A)

昭64-55427

⑤Int.Cl.⁴

F 16 D 3/21

識別記号

庁内整理番号

M-2125-3J

⑬公開 昭和64年(1989)3月2日

審査請求 未請求 請求項の数 6 (全6頁)

⑭発明の名称 回転モーメントを伝達する軸、特にカルダン軸及び部分駆動軸に使用するためのユニバーサルジョイント

⑮特 願 昭63-109285

⑯出 願 昭63(1988)5月6日

優先権主張 ⑰1987年5月6日⑱西ドイツ(DE)⑲P3714987.3

⑳発 明 者 ウエルネル・ルーチエ ドイツ連邦共和国、ウアルフ1、エリカウエーク、14
テイ

㉑出 願 人 グリコ・メタル・ウェルケ・デーレン・ウン トドイツ連邦共和国、ウイースバーデン、シュテイルスト
ラーセ、18
ト・ロース・ゲゼルシ
ヤフト・ミト・ベシユ
レンクテル・ハフツン
グ

㉒代 理 人 弁理士 江崎 光好 外1名
最終頁に続く

明 細 書

1. 発明の名称

回転モーメントを伝達する軸、特にカルダン軸及び部分駆動軸に使用するためのユニバーサルジョイント

2. 特許請求の範囲

(1) 回転モーメントを伝達する軸、特に自動車の車輪独立懸架装置におけるカルダン軸及び部分駆動軸に使用するためのユニバーサルジョイントにして、それが1つの軸部分の端部に装着され、軸の軸線に対してラジアル方向外側へ延びる3本又はそれ以上の連行ジャーナルを有するジョイントーヘッドと、第2の軸部分上に装着された受けブッシュとから成り、連行ジャーナルにはそれぞれ1つの連行ローラーが回転可能に支承されており、受けブッシュのジョイントーヘッドを取り囲む壁には、ほぼ軸方向に延びる連行ローラー用収容部が設けられている様なユニバーサルジョイントにおいて、ジョイントーヘッド(12)の各連行ローラー(14)が

滑り軸受ブッシュ(16)を用いてその連行ジャーナル(13)に回転可能に支承されており、その際滑り軸受ブッシュ(16)はその内側で連行ジャーナル(13)の周辺面用の摩擦学的な対抗面として設けられた滑動層(17)の所に、補強材料(27)及び場合により滑り特性を良くする添加物(28)を含むポリアリアルケトン又はポリアリアルスルフォン製のマトリックスを具備していることを特徴とするユニバーサルジョイント。

(2) 滑り軸受ブッシュ(16)の滑動層(17)の所のマトリックス(26)がポリエーテルエーテルケトンから形成されていることを特徴とする請求項1に記載のユニバーサルジョイント。

(3) 滑り軸受ブッシュ(16)の滑動層(17)の所のマトリックス(26)がポリエーテルスルフォンから形成されていることを特徴とする請求項1に記載のユニバーサルジョイント。

(4) 1.0 mm 以下の長さで0.005 mm と0.03 mm の

間の直径とを有し、滑動層(17)の重量に対して10%から45%の間の割合を占めるグラファイト短繊維(27)が補強材料としてマトリックス(26)内に沈着していることを特徴とする請求項1から請求項3のうちの1項に記載のユニバーサルジョイント。

(5) 滑り特性を良くする添加物(28)として粒度 $\leq 40 \mu\text{m}$ のPTFE-粒子がマトリックス(26)内に沈着していることを特徴とする請求項1から請求項4のうちの1項に記載のユニバーサルジョイント。

(6) 滑動層(17)が軸受ブッシュ(16)の内側に設けられた粗性基体(25)上に、特に球形のブロンズから形成された有孔性の焼結骨格上に設けられていることを特徴とする請求項1から請求項5のうちの1項に記載のユニバーサルジョイント。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、回転モーメントを伝達する軸、特に自動車の車輪独立懸架装置におけるカルダン

ラーの支承は一方で、連行ローラーも連行ジャーナルも互いに向かい合う表面の所で硬化され且つ高度に表面加工が成されなければならないといことを必須条件としている。ニードル軸受は端面側で被覆され保護されていなければならない。更にこの種転がり軸受、特にニードル軸受によってユニバーサルジョイントが回転している時に高いレベルの騒音が生ずる。特にまた高い回転モーメントを伝達する種のユニバーサルジョイントに使用する時にニードル軸受は寿命が短い。唯1個の転動体に傷がついても即座に全体の転がり軸受乃至はニードル軸受が壊れたり、場合によってはユニバーサルジョイントが動かなく成ったりし、それによりユニバーサルジョイントの別の部分も著しく損傷してしまうことがあった。

これに対して本発明は、初めに述べた種のユニバーサルジョイントを改良し、全体構造を極めて安価なものとし且つ連行ローラーの軸受部の摩耗を低下させる様にしつつ、寿命を著しく

軸及び部分駆動軸に使用するためのユニバーサルジョイントに関する。そしてそのユニバーサルジョイントが、第1の軸部分の端部に装着され、軸の軸線に対してラジアル方向外側へ延びる3本又はそれ以上の連行ジャーナルを有するジョイント-ヘッドと、第2の軸部分上に装着された受けブッシュとから成り、連行ジャーナルにはそれぞれ1つの連行ローラーが回転可能に支承されており、受けブッシュのジョイント-ヘッドを取り囲む壁には、ほぼ軸方向に延びる連行ローラー用収容部が設けられている。

市場にあるこの種のユニバーサルジョイントにあっては、連行ローラーはニードル軸受を用いてそれを支持する連行ジャーナル上に支承されている。これによりしかしながら著しい欠点が生ずる。特にこの種軸受はそのようなユニバーサルジョイントを極めて高価なものとし、加えて各ユニバーサルジョイントには少なくとも3個のこの様に支承された連行ローラーが設けられている。ニードル軸受を用いた連行ロー

長くし軸受が動かなくなる危険を回避するようにすることを課題とするものである。

この課題は本発明によれば次に様にして解決される。即ちジョイント-ヘッドの連行ローラーが滑り軸受ブッシュを用いてその連行ジャーナル上に回転可能に支承され、その際滑り軸受ブッシュの内側に連行ジャーナルの周辺面に対して摩擦学的な対抗面として設けた滑動層が補強材料及び場合により滑り特性を良くする添加物を含んだポリアリアルケトン又はポリアリアルスルフォン製のマトリックスを有している様に解決される。

この種のユニバーサルジョイントでニードル軸受を滑り軸受ブッシュにより置換するという今迄の種々の試みは失敗に終わっていた。何故ならば全て考えられる滑動材料を使用した場合の滑り軸受ブッシュの滑動層は早く摩耗してしまい、ユニバーサルジョイントの遊びが極めて大きくなってしまったからである。

その様な滑り軸受ブッシュを使用した場合、

即ち連行ジャーナルの周辺面用の摩擦学的対抗面として設けられた滑り軸受ブッシュの滑動層にはポリアリアルケトン又はポリアリアルスルホン製のマトリックスがあり、このマトリックス内に補強材料及び場合によっては滑り特性を良くする添加物を含んでいる時、連行ローラーを支持するため連行ジャーナルに課せられた必須要件が長い寿命に渡り完全に維持されることが期せずして判明した。その際特に本発明の様な滑り軸受ブッシュを使用すると摩耗とそれに伴う悪い結果とが事実認められなくなることが分かった。

本発明の特に有利な実施形態にあつては、滑り軸受ブッシュの滑動層のマトリックスをポリエーテルエーテルケトンから形成する。しかしまた滑りブッシュの滑動層のマトリックスをポリエーテルスルホンから作っても良い。

特に本発明の枠内で、1.0 mm 以下の長さと0.005 mm と0.03 mm の間の直径とを有し、滑動層の重量に対して10%から45%の間の割

合を占めるグラファイト短繊維を補強材料としてマトリックス内に沈着させることも目的に叶っている。滑り特性を良くする添加物として本発明の枠内で粒度 $\leq 40 \mu\text{m}$ のPTFE-粒子をポリアリアルケトン又はポリアリアルスルホン製のマトリックスの中に入れることを考慮してもよい。

本発明の特に有利な発展形態は、軸受ブッシュの内側に設けた粗い基体上に、特に有利な様に球形状のブロンズから作った有孔性の焼結骨格上に滑動層を設けている。

次に図面に基づいて本発明の実施例を詳細に説明することにする。

第1図から分かる様に、ユニバーサルジョイント11には1つのジョイントヘッド12があり、それは第1の軸部分に装着されており、120°の角度で周辺に分配されラジアル方向外側へ延びる3本の連行ジャーナル13を有しており、その各連行ジャーナルには回転可能な連行ローラー14が支持している。連行ローラ

ー14は球形の周辺面と円筒形の中央開口15とを備え、その開口15内に軸受ブッシュ16が押し嵌め式に挿入されている。その内面で滑り軸受ブッシュ16には連行ジャーナル13の周辺面に対する摩擦学的対抗面としての滑動層17がある。連行ローラー14及び滑り軸受ブッシュ16によって形成されるユニットは連行ジャーナル13の外側端部領域に嵌められた簡単なO-リング18を用いて連行ジャーナル13から走り出ない様に又は滑り落ちない様に確保されている。

これに対して比較するように第2図には連行ジャーナル13上に従来通りの支承の仕方をした連行ローラー14の極めて複雑な構造のものが示されている。これによれば連行ローラー14と軸受ジャーナル13の外側周辺面との間に多数の転動体乃至はニードル16'が挿入されている。連行ローラー14の内面と連行ジャーナル13の外側周辺面とは転がり軸受装置の直接的な部分であるので、これら構成部材は上記

表面の範囲で硬化されていなければならない、且つそれらの表面がかなり高度に加工されていなければならない。転がり軸受ニードル16'は端面側で軸受から飛び出さないように確保されていなければならない。この為に内側止めリング17'と外側止めリング18'とが必要である。連行ローラー14とニードル軸受16'を正確に案内するために更に連行ジャーナル13の外側端面の側に留めネジ19'を有する特別な停止プレート19'が必要である。ニードル軸受16'には監視と保守が必要である。

第4図から分かる様に、この例で滑り軸受ブッシュ16はスチール製の軸受背面層24を有しており、この背面層24には滑動層17を支持する側に有孔性の焼結骨格として球形のブロンズから成る粗性基体25がある。この粗性基体25の上に固有の滑動層17が溶着されており、その滑動層はポリエーテルエーテルケトン製のマトリックス26を有している。その際このマトリックス26が焼結骨格25の中空空

間の中に溶けて入り込む。このマトリックス26内にはグラファイト短繊維27が沈着されており、これら短繊維は1.0 mm以下の長さで、0.005 mmと0.03 mmの間の直径を有し、滑動層17の全重量に対して10%から45%の間の割合を占めている。更にマトリックス26内には滑り特性を良くする添加物としてPTFE(ポリテトラフルオールエチレン)一粒子が沈着されている。このPTFE一粒子28の粒度は40 μm以下である。

滑動層17はそのマトリックス材料及び沈着されたPTFE一粒子28のために自己潤滑性があり、そして実際に殆ど摩擦がない。連行ローラー14は一定幅だけ連行ジャーナル13上で軸方向に行ったり来たり運動をしようるものであり、それによって受けブッシュ20のそれに応じた軸方向の切り欠き22の内面に最適に従うものである。(第1図参照)

4. 図面の簡単な説明

第1図は部分的に切って示した受けブッシュ

- 20 受けブッシュ
- 21 受けブッシュの切り欠きの内面
- 22 受けブッシュの切り欠き
- 24 軸受背面部
- 25 粗性基体
- 26 マトリックス
- 27 補強材料(グラファイト短繊維)
- 28 滑り特性を良くする添加物

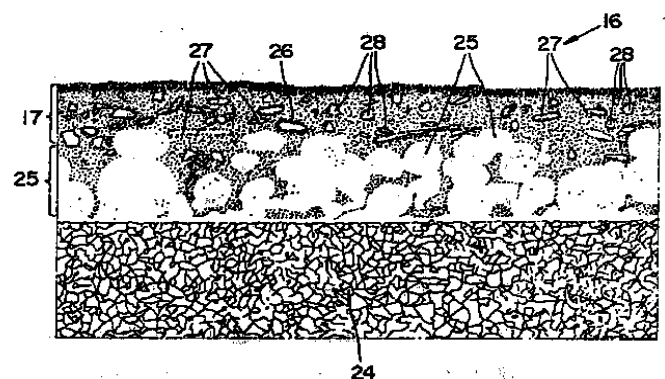
及び連行ローラーを有する本発明に従うユニバーサルジョイントの部分断面図であり、第2図は従来通りの方法で支持した連行ローラーと連行ジャーナルを有するジョイントヘッドの部分図であり、第2a図は第2図の線IIa-IIaに従う断面図であり、第3図は連行ジャーナルから外した連行ローラーを図示した第1図によるユニバーサルジョイントのジョイントヘッドを示し、第4図は滑り軸受ブッシュの構造を著しく拡大した部分図である。

図中参照番号

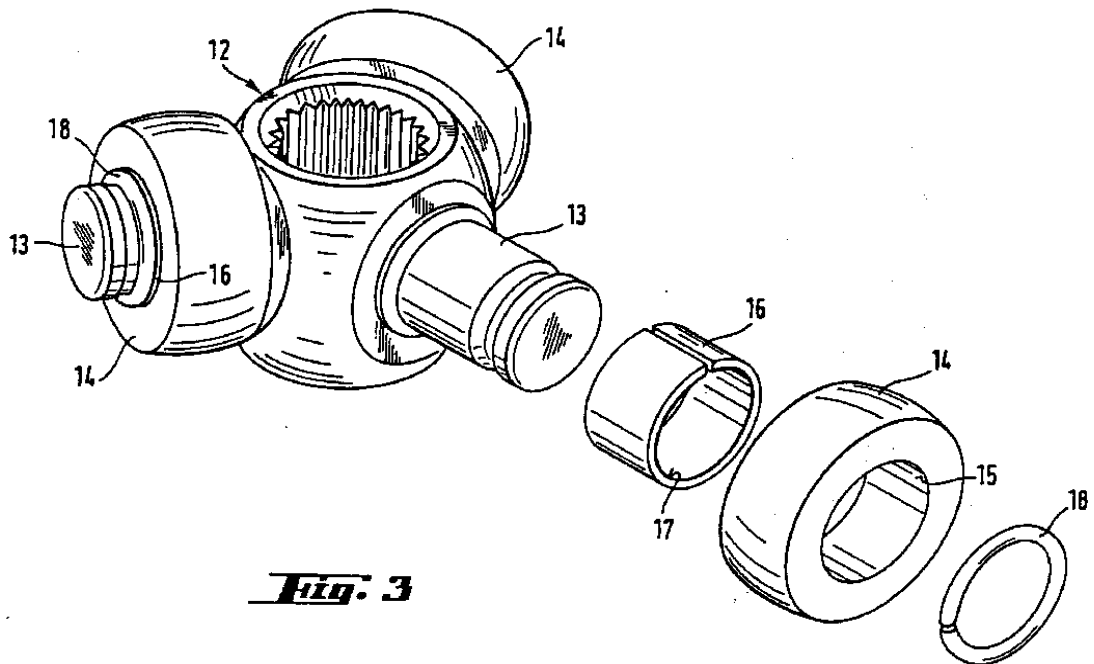
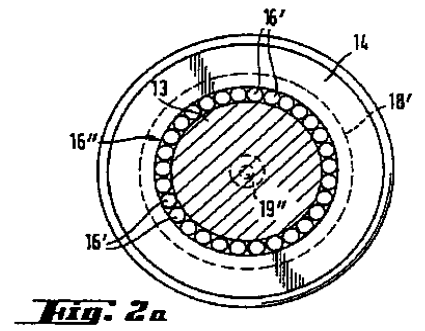
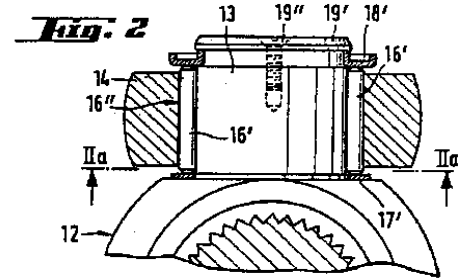
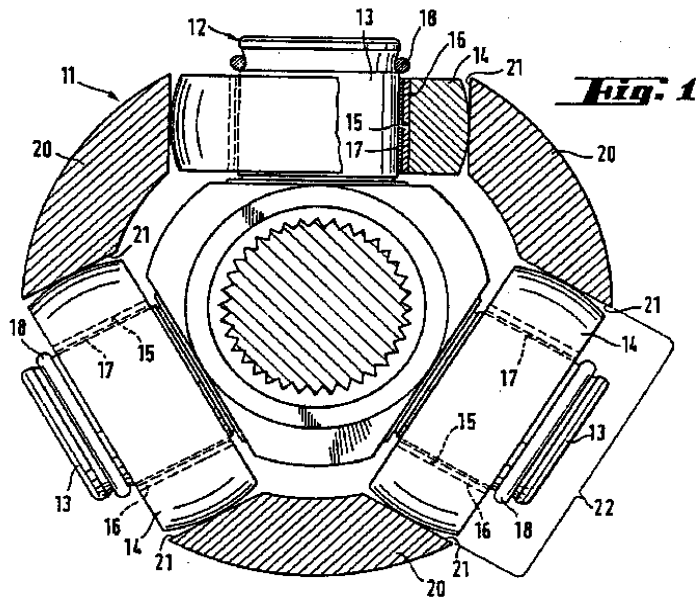
- 11 ユニバーサルジョイント
- 12 ジョイントヘッド
- 13 連行ジャーナル
- 14 連行ローラー
- 15 円筒状の中央開口
- 16 滑り軸受ブッシュ
- 17 滑動層
- 18 Oリング

図面の浄書(内容に変更なし)

Fig. 4



代理人 江崎 光 好
代理人 江崎 光 史



第1頁の続き

- ②発明者 ベルント・コットウイ ツ ドイツ連邦共和国、ピュットリンゲン3、タールペンウエーク、11
- ①出願人 エス・カー・エフ・ゲ ライトラーゲル・ゲゼルシャフト・ミト・ベシユレンクテル・ハフツング ドイツ連邦共和国、ピュットリンゲン 3、ミューレンストラーセ、43

手続補正書 (方式)昭和63年8月¹⁹~~16~~日

特許庁長官 吉田文毅殿

1. 事件の表示

昭和63年特許願第109285号

2. 発明の名称

回転モーメントを伝達する軸、特にカルタシ軸
及び部分駆動軸に使用するためのユニバーサルジョイント

3. 補正をする者

事件との関係 出願人

氏名 グリコメタル・ウェルケ・デーレン・ウント・ローズ・
ゲゼルシャフト・ミト・ベシユレンクテル・ハフツング

(ほか1名)

4. 代理人

住所 東京都港区虎ノ門二丁目8番1号 (虎の門電気ビル)
電話 03 (502) 1476 (代表)

氏名 弁護士 (4013) 江崎 光
ほか1名

5. 補正命令の日附

昭和63年7月6日

6. 補正の対象

~~願書の発明者及び出願人の欄 委任状 明細書の発明内容~~
~~に変更なし~~ 図面の浄書 (内容に変更なし)

第4図の

7. 補正の内容

別紙の通り

方式
審査

PAT-NO: JP401055427A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 01055427 A
TITLE: UNIVERSAL JOINT FOR
TRANSMITTING ANGULAR MOMENT,
IN PARTICULAR FOR CARDAN
SHAFT AND PARTIAL DRIVE
SHAFT
PUBN-DATE: March 2, 1989

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
LUCCHETTI, WERNER	N/A
KOTTWITZ, BERND	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
GLYCO METALL WERKE DAELEN & LOOS GMBH	N/A
SKF GLEITLAGER GMBH	N/A

APPL-NO: JP63109285
APPL-DATE: May 6, 1988

PRIORITY-DATA: 873714987 (May 6, 1987)

INT-CL (IPC): F16D003/21

ABSTRACT:

PURPOSE: To reduce the wearing in the bearing

portion by arranging a slip layer of the retraining roller for raising the slip property at the inner side of the slide bearing bushing rotatably supported on the entraining journal.

CONSTITUTION: A spherical basic component supporting a slip layer 17 is on the back layer of a slide bearing bushing 16. The slip layer 17 deposited on the basic component has a matrix made of polyether-etherketone. The matrix is deposited in the hollow space of the basic component. Graphite short fibers are deposited inside the matrix. These short fibers have a length shorter than about 1 mm and a diameter of about 0.005-0.03 mm, comprising 10-45% of the total weight of the slip layer 17. PTFE granular of a granularity of 40 μ m are deposited in the matrix as an additive for improving the slip property.

COPYRIGHT: (C)1989, JPO